



# 1 ペットは家族 ー命を大切にー



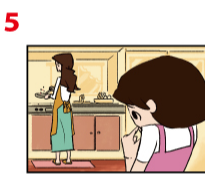
2  
 母 ある雨の日のこと。  
 あかねちゃんは大好きな黄色の傘をさして、  
 学校から急いでお家に帰っています。  
 あかね 「今日のおやつは何かな〜？」  
 母 家の近くの公園まで来たあかねちゃんは、  
 小さな段ボール箱を見つけました。



3  
 あかね 「あれ、なんだろう？」  
 母 あかねちゃんは、雨に濡れて  
 破れた段ボールの中に何かを見つけたようです。



4  
 あかね 「わー!! 子イヌが入ってる!!  
 寒くてふるえてる。かわいそう…どうしよう!」  
 母 あかねちゃんは考えました。  
 あかね 「そうだ!家で飼ってもいいか、お母さんに聞いてみよう!」  
 母 あかねちゃんは走って家に帰りました。



5  
 あかね 「お母さんただいま! あのね、お母さん、学校の帰りに公園で  
 子犬を見つけたの。雨に濡れて、寒くてふるえてて、  
 とってもかわいそうだったの。  
 だから家に連れて帰ってきていい?」  
 母 あかねちゃんは一生懸命お母さんをお願いしました。



6  
 母 「まあ、それはかわいそうね。  
 お母さんはイヌが大好きだけど…でも飼えるかしら?  
 あかねちゃん、犬を飼ったら  
 毎日ごはんをあげたり、お散歩につれて行ったり  
 お風呂に入れてあげたり、ウンコしちゃったら  
 お掃除もしてあげなきゃならないの。  
 あかねちゃん、前にバツさんを飼った事あるでしょう?」



7  
 母 あかねちゃんは小学校1年の夏休みの事を思い出しました。  
 おとうさんと虫取に行って、大きなバツをつかまえました。  
 おとうさんが逃がしてあげなさいと言いましたが、  
 あかねちゃんは自分が世話をするからと、お父さんをお願いして  
 家に連れて帰りました。  
 あかねちゃんは、初めは嬉しくて頑張って世話をしていましたが、  
 だんだんごはんをあげるのを忘れてしまうようになりました。



8  
 母 そしてある日、あかねちゃんがバツを見ると、  
 バツは上を向いて動かなくなっていました。  
 その時、  
 「お水もごはんもあげずに放っておいたから、  
 バツさんはかわいそうにおなかですいて  
 死んじゃったのよ。約束が守れないなら連れて帰って来ちゃだめでしょう」  
 とお母さんに叱られました。  
 あかねちゃんはバツさんのことを思い出して、何も言えなくなりました。  
 あかね 「でも、子犬がかわいそう。どうしたらいいんだろう?」



9  
 ジンケンダ - 「ジン!ケン!ダー!!」  
 あかね 「あつ!ジンケンダー!」



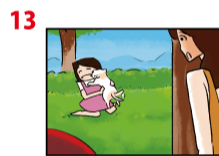
10  
 ジンケンダ - 「あかねちゃん、僕と一緒に公園に行くのだ!」  
 母 あかねちゃんはお気に入りの傘をさして、  
 ジンケンダーと一緒に公園へ行きました。  
 あかね 「お家に連れて帰れなくてごめん下さい。  
 でも、あしたもまた来るからね。」  
 母 あかねちゃんはお気に入りの傘を段ボールへさして、お家に帰りました。  
 それからしばらくたったある日



11  
 母 「あかねちゃん!!どこにいるの?  
 あら、どこへ行ったのかしら?  
 この頃毎日外出かけてみたいだわ。  
 おやつは食べたみたいね。  
 でもいつの間に食べたのかしら?」  
 母 その頃公園では…



12  
 ジンケンダ - 「マントをかんではいけないのダー! あう〜。」  
 あかね 「シロ!おやつ持ってきたよ!今日のおやつはビスケットだよ。  
 おいしそうでしょう?いっぱい食べてね!」  
 ジンケンダ - 「ビスケットおいしそうなのダー!  
 あかねちゃんは、自分のおやつを食べずに  
 シロに持ってきてあげて、やさしいのダー!」  
 母 ジンケンダーは、シロと名づけた子犬の世話を頑張っている、  
 あかねちゃんの事をお母さんに知ってほしくて  
 こっそりお母さんをお母さんに呼びに行きました。



13  
 ジンケンダ - 「あかねちゃんのお母さん、僕と一緒に公園へ来てほしいのダー!」  
 母 お母さんは、子犬にビスケットをあげているあかねちゃんを見て  
 びっくりしました。  
 母 「あかねちゃん。何してるの?」  
 あかね 「お母さん!!」  
 母 あかねちゃんはお母さんを見てびっくりしましたが、勇気を出して  
 言いました。



14  
 あかね 「お母さん、あの…えっと…あのね、お母さん、  
 ちゃんとお世話するって約束するから、シロを家に連れて帰っていい?」  
 母 お母さんはあかねちゃんの真剣な顔をじっと見ていました。



15  
 母 「わかったわ。でも、ちゃんとお世話するって約束よ。  
 指切りげんまん…  
 じゃあ、お家に帰ってシロちゃんの家を準備しましょう。」  
 あかね 「お母さんありがとう!  
 ジンケンダーもシロのお家作るの、手伝ってくれる?」  
 ジンケンダ - 「もちろんなのダー! でも、マントをかんではいけないのダー!」  
 母 こうしてシロはあかねちゃんのお家の家族になりました。  
 あかねちゃんとシロはそれからずっと仲良く、暮らしました。



16  
 ジンケンダ - 「みんなは、汚れた犬小屋につながらてる犬や、ゴミ袋を破って  
 ゴミを食べているねこを、見たことがあるかな?  
 飼いだめな時はうれしくて世話をしていたのに、だんだん世話を  
 しなくなる人や、何かわけがあつて飼えなくなると、動物を捨てて  
 しまう人がいるけど、どんな生き物にも命はひとつしかないのダ!  
 みんなも、動物を飼うときは、その飼い方をよくわかって、  
 さいごまで責任を持って飼うのダー!」